

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)福岡市南区大橋二丁目新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>2.8</b>	
<b>1 音環境</b>		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.4</b>	
1.1 室内騒音レベル	-	<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.50	<b>3.6</b>	0.50		
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能: T-2以上。	<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能	-	-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	<b>3.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	<b>3.0</b>	0.20		
1.3 吸音	-	-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.6</b>	0.35	<b>2.1</b>	1.00	<b>2.0</b>	
2.1 室温制御		<b>2.2</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50		
1 室温	-	<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63		
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準における等級4相当である。	<b>1.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	0.38		
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御	-	<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20		
2.3 空調方式	-	<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.3</b>	
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光率	住居・宿泊部分: 2.0% ≤ [昼光率]。	<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50		
2 方位別開口	-	-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 昼光利用設備	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20		
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光制御	カーテンと庇を合わせることでグレアを制御します。	<b>1.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
3.3 照度	-	<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御	-	<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>	
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
4.2 換気		<b>2.0</b>	0.40	<b>1.6</b>	0.38		
1 換気量	-	<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33		
2 自然換気性能	-	-	-	<b>1.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	-	<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>	
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>	
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	<b>3.0</b>	1.00		
3 バリアフリー計画	-	<b>3.0</b>	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観	-	-	-	<b>3.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-		
3 内装計画	-	<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50		
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>2.7</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	<b>2.0</b>	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	<b>2.0</b>	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 電気設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		
5 通信・情報設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり	階高2.9m以上、3.0m未満。		-	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		-	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
1 生物環境の保全と創出	-		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準における等級4相当である。		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI = 0.92		3.8	0.50	-	-	3.8
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: 複層ビニル床シート。		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSと乾式二重床を使用している。		4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して96%。		3.1	0.33	-	-	3.1
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	